

デーリー東北

2026年(令和8年)1月28日(水曜日) (12)



ネイティブスピーカーの講師から英語プレゼンテーションの方法を学ぶ参加者

八工大でプレゼンテーションセミナー

英語で発表。ポイントとは

「ネイティブ講師」が指導

八戸

八戸工業大は23日、八戸市の同大で英語プレゼンテーションセミナーを開いた。同大の大学院生や学生、学外の英語教育関係者ら約30人が参加。ネイティブスピーカーの講師が効果的な説明方法や資料の作り方を指導したほか、同大大学院生5人が英語で研究内容を発表した。同大では5年ほど前から、大学院生が英語教育



英語で研究内容を発表する大学院生

今回のセミナーでは、同協議会のアンドリュー・リンチさんが英語プレゼンテーション・ワークショップを実施。「台本はできるだけシンプルにして、聴衆とアイコンタクトを取る」「スライドは内容を盛り込みすぎない」などとノウハウを伝

えた上で、「最も重要なのは自分のテーマについて熱意を持って話すこと」と呼びかけた。

後半は大学院生5人が順番に登壇し、スライドを使いながら自身の研究を説明した。同市島守地区にある民家を研究している社会基盤工学専攻博士前期課程の吉田巧樹さん(23)は「英語での発表は海外の人にも自分の研究を知ってもらう機会。楽しみながら面白さをアピールできるようにしたい」と意欲を見せる。

同大の英語指導を担当する感性デザイン学部の岩見一郎教授は「大学院生が八戸にいながら英語の勉強に励んでいることを学内、さらには学外の人にも認知してもらい、活動を広げていきたい」と述べた。(上條哲洋)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。